

フェルマー点【類題】

△ABCにおいて、∠BAC=90°、 $|\overrightarrow{AB}|=1$ 、 $|\overrightarrow{AC}|=\sqrt{3}$ とする。

△ABCの内部の点Pが

$$\frac{\overrightarrow{PA}}{|\overrightarrow{PA}|} + \frac{\overrightarrow{PB}}{|\overrightarrow{PB}|} + \frac{\overrightarrow{PC}}{|\overrightarrow{PC}|} = \vec{0}$$

を満たすとする。

(1) ∠APB, ∠APC を求めよ。

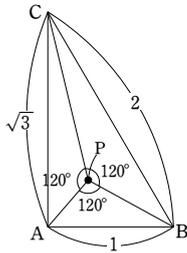
(2) $|\overrightarrow{PA}|$, $|\overrightarrow{PB}|$, $|\overrightarrow{PC}|$ を求めよ。

< '13 東京大 >

【戦略】

(1) 例題と同様のため割愛します。

(2) $|\overrightarrow{PA}|=a$, $|\overrightarrow{PB}|=b$, $|\overrightarrow{PC}|=c$ とおきます。



3つの未知数 a, b, c を求めるためには条件式も3つ必要です。

目につくのは(1)で導出した120°という角度を活かす余弦定理でしょうか。

$$\begin{cases} a^2 + b^2 - 2ab \cos 120^\circ = 1^2 \\ b^2 + c^2 - 2bc \cos 120^\circ = 2^2 \\ c^2 + a^2 - 2ca \cos 120^\circ = (\sqrt{3})^2 \end{cases}$$

すなわち
$$\begin{cases} a^2 + b^2 + ab = 1 \quad \dots (\text{ア}) \\ b^2 + c^2 + bc = 4 \quad \dots (\text{イ}) \\ c^2 + a^2 + ca = 3 \quad \dots (\text{ウ}) \end{cases}$$
 を得ます。

この連立方程式をどう捌くのかで差が付くでしょう。

ひとまずは(ア)-(イ)から

$$\begin{aligned} a^2 - c^2 + ab - bc &= -3 \\ (a+c)(a-c) + b(a-c) &= -3 \\ (a-c)(a+b+c) &= -3 \end{aligned}$$

と因数分解できます。

(ア)-(イ)が因数分解できることから(イ)-(ウ)も因数分解できるはずで、同様に計算すると

$$(b-a)(a+b+c) = 1$$

を得ます。

よって、 $\frac{(a-c)(a+b+c)}{(b-a)(a+b+c)} = \frac{-3}{1}$ から $\frac{a-c}{b-a} = -3$, すなわち

$c = -2a + 3b$ を得て、 c を消去できます。

1文字消えてくれれば、あとは手なりに進むはず。

【解答】

(1) $\frac{\overrightarrow{PA}}{|\overrightarrow{PA}|} = \vec{e}_A$, $\frac{\overrightarrow{PB}}{|\overrightarrow{PB}|} = \vec{e}_B$, $\frac{\overrightarrow{PC}}{|\overrightarrow{PC}|} = \vec{e}_C$ とおく。

条件より、 $\vec{e}_A + \vec{e}_B + \vec{e}_C = \vec{0} \dots \text{①}$

また、 $|\vec{e}_A| = |\vec{e}_B| = |\vec{e}_C| = 1 \dots \text{②}$

さて、①より、 $|\vec{e}_A + \vec{e}_B|^2 = |\vec{e}_C|^2$

②に注意すると、 $1^2 + 2\vec{e}_A \cdot \vec{e}_B + 1^2 = 1^2$

これより $\vec{e}_A \cdot \vec{e}_B = -\frac{1}{2}$ で、 \vec{e}_A, \vec{e}_B のなす角を θ_1 とすると

$|\vec{e}_A| \cdot |\vec{e}_B| \cdot \cos \theta_1 = -\frac{1}{2}$ で、②より $\cos \theta_1 = -\frac{1}{2}$

ゆえに、 \vec{e}_A, \vec{e}_B のなす角は 120° であり、 $\angle APB = 120^\circ$

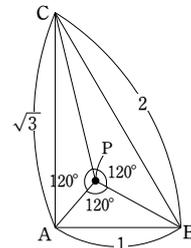
同様に、①、②のもつ式の対称性から

$$\vec{e}_C, \vec{e}_A \text{ のなす角も } 120^\circ$$

であり、 $\angle APC = 120^\circ$

以上から、 $\angle APB = 120^\circ$, $\angle APC = 120^\circ \dots \text{㊦}$

(2) $|\overrightarrow{PA}|=a$, $|\overrightarrow{PB}|=b$, $|\overrightarrow{PC}|=c$ とおく。



△PAB, △PBC, △PCA で余弦定理を用いると

$$\begin{cases} a^2 + b^2 + ab = 1 \quad \dots (\text{ア}) \\ b^2 + c^2 + bc = 4 \quad \dots (\text{イ}) \\ c^2 + a^2 + ca = 3 \quad \dots (\text{ウ}) \end{cases}$$

(ア)-(イ)より

$$\begin{aligned} a^2 - c^2 + ab - bc &= -3 \\ (a+c)(a-c) + b(a-c) &= -3 \\ (a-c)(a+b+c) &= -3 \quad \dots (\text{エ}) \end{aligned}$$

同様に(イ)-(ウ)より $(b-a)(a+b+c) = 1 \dots (\text{オ})$

(エ), (オ)より、 $\frac{(a-c)(a+b+c)}{(b-a)(a+b+c)} = \frac{-3}{1}$, すなわち $\frac{a-c}{b-a} = -3$

これを整理すると、 $c = -2a + 3b$ を得る。

(エ)より、 $\{a - (-2a + 3b)\} \{a + b + (-2a + 3b)\} = -3$ であり、

$$(a-b)(-a+4b) = -1$$

これを整理すると $a^2 - 5ab + 4b^2 = 1 \dots (カ)$

(ア)-(カ)より、 a^2 を消去すると

$$\begin{aligned} 6ab - 3b^2 &= 0 \\ 3b(2a - b) &= 0 \end{aligned}$$

$b \neq 0$ より、 $b = 2a$ を得る。

このとき、 $c = -2a + 3b = -2a + 6a = 4a$

(ア)から、 $a^2 + (2a)^2 + a \cdot 2a = 1$ で、 $7a^2 = 1$

$a > 0$ より $a = \frac{1}{\sqrt{7}}$ を得て、 $b = \frac{2}{\sqrt{7}}$ 、 $c = \frac{4}{\sqrt{7}}$

以上から、 $|\vec{PA}| = \frac{1}{\sqrt{7}}$ 、 $|\vec{PB}| = \frac{2}{\sqrt{7}}$ 、 $|\vec{PC}| = \frac{4}{\sqrt{7}} \dots \text{答}$

【戦略2】(2)の連立方程式について 方針のみ

$$\begin{cases} a^2 + ab + b^2 = 1 \dots (ア) \\ b^2 + c^2 + bc = 4 \dots (イ) \\ c^2 + a^2 + ca = 3 \dots (ウ) \end{cases}$$

ですが、 $a^3 - b^3 = (a-b)(a^2 + ab + b^2)$ という因数分解をインスピレーションできれば、(ア)の両辺に $a-b$ をかけることで

$$(a-b)(a^2 + ab + b^2) = a^3 - b^3$$

となり、他も同じ要領で

$$\begin{cases} a^3 - b^3 = a - b \\ b^3 - c^3 = 4(b - c) \\ c^3 - a^3 = 3(c - a) \end{cases}$$

を得ます。

辺々加えれば $0 = -2a + 3b - c$ 、すなわち $c = -2a + 3b$ と文字消去まで辿り着けます。

ここからは【解1】に準じます。

ただし、 $a^2 + ab + b^2 = 1$ と $(a-b)(a^2 + ab + b^2) = a - b$ は同値ではありません。($a \neq b$ なら同値なのですが)

今回得られる $a = \frac{1}{\sqrt{7}}$ 、 $b = \frac{2}{\sqrt{7}}$ 、 $c = \frac{4}{\sqrt{7}}$ がきちんと(ア)、(イ)、(ウ)を満たしているかどうかをチェックする

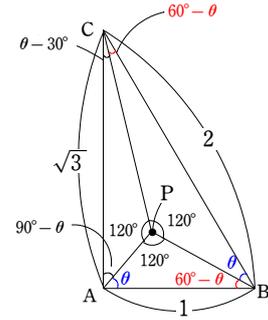
あるいは、 $a = b$ と仮定すると(イ)、(ウ)より $\begin{cases} a^2 + c^2 + ac = 4 \\ a^2 + c^2 + ac = 3 \end{cases}$ となり矛盾します。

よって、 $a \neq b$ で同様に $b \neq c$ 、 $c \neq a$ も言えるため、(ア)、(イ)、(ウ)から

$$\begin{cases} a^3 - b^3 = a - b \\ b^3 - c^3 = 4(b - c) \\ c^3 - a^3 = 3(c - a) \end{cases} \text{への式変形は同値であるという言及は必要でしょう。}$$

【戦略3】

角度の状況を $\angle PAB = \theta$ と書いて書き込んでいくと



のような状況になります。

ここで、 $\triangle PAB \sim \triangle PBC$ であることに気が付くと

$$a : b : 1 = b : c : 2$$

すなわち $\frac{b}{a} = \frac{c}{b} = \frac{2}{1}$ を得ますから、

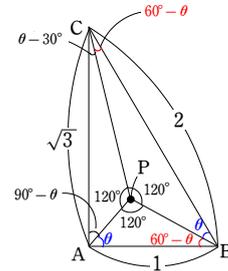
$$b = 2a, c = 2b (= 4a)$$

と速攻で文字消去できてしまいます。

【解3】

(2) $|\vec{PA}| = a$ 、 $|\vec{PB}| = b$ 、 $|\vec{PC}| = c$ とおく。

$\angle PAB = \theta$ ($0^\circ < \theta < 90^\circ$)とおくと



という状態となり、 $\triangle PAB \sim \triangle PBC$ (\because 内角がすべて等しい)であるため

$$a : b : 1 = b : c : 2$$

よって、 $\frac{b}{a} = \frac{c}{b} = \frac{2}{1}$ であり、 $b = 2a \dots (*)$ 、 $c = 2b (= 4a) \dots (**)$

$\triangle PAB$ で余弦定理を用いると

$$a^2 + b^2 - 2ab \cos 120^\circ = 1^2$$

$$a^2 + b^2 + ab = 1$$

(*)、(**)を代入すると $a^2 + (2a)^2 + a \cdot (2a) = 1$

ゆえに、 $7a^2 = 1$ で、 $a > 0$ より $a = \frac{1}{\sqrt{7}}$ を得る。

(*)、(**)より、 $b = \frac{2}{\sqrt{7}}$ 、 $c = \frac{4}{\sqrt{7}}$

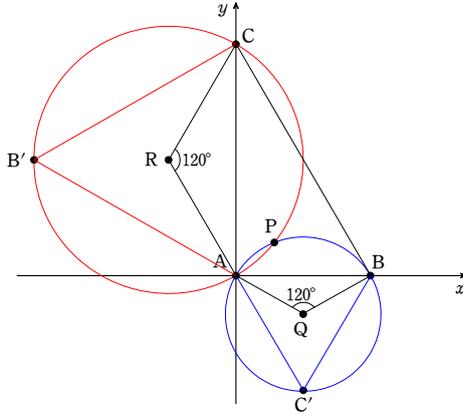
よって、 $|\vec{PA}| = \frac{1}{\sqrt{7}}$ 、 $|\vec{PB}| = \frac{2}{\sqrt{7}}$ 、 $|\vec{PC}| = \frac{4}{\sqrt{7}} \dots \text{答}$

【戦略4】(2)について

フェルマー点の作り方について経験や見識があれば、外側に正三角形を作り、その外接円をとらえるということもできます。

ただし、経験に依存する方針であることは否めません。

【解4】(2)について



(図1)

$A(0, 0)$, $B(1, 0)$, $C(0, \sqrt{3})$ とする。

(図1)のように、正三角形 ABC' , $AB'C$ を作るように B' , C' をとる。

$\triangle ABC'$ の外接円を C_1 , $\triangle AB'C$ の外接円を C_2 とする。

このとき、 C_1 , C_2 の A 以外の交点が P である。

$$C_1 : \left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \left(y + \frac{1}{2\sqrt{3}}\right)^2 = \left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right)^2$$

これを整理すると、 $x^2 + y^2 - x + \frac{1}{\sqrt{3}}y = 0 \dots \textcircled{1}$

$$C_2 : \left(x + \frac{1}{2}\right)^2 + \left(y - \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 = 1^2$$

これを整理すると、 $x^2 + y^2 + x - \sqrt{3}y = 0 \dots \textcircled{2}$

$\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ を連立して、 $\textcircled{1} - \textcircled{2}$ を計算すると

$$-2x + \frac{4}{\sqrt{3}}y = 0, \text{ すなわち } y = \frac{\sqrt{3}}{2}x \text{ を得る。}$$

これを $\textcircled{1}$ に代入し、 $x^2 + \frac{3}{4}x^2 - x + \frac{1}{2}x = 0$ で、 $x(7x - 2) = 0$ を得る。

$x = 0$ は A の x 座標を与えるので、 P の x 座標は $x = \frac{2}{7}$

このとき、 y 座標は $y = \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{2}{7} = \frac{\sqrt{3}}{7}$ であるため、 $P\left(\frac{2}{7}, \frac{\sqrt{3}}{7}\right)$

$$\text{ゆえに、} \begin{cases} PA = \sqrt{\left(\frac{2}{7}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{7}\right)^2} = \frac{\sqrt{7}}{7} \\ PB = \sqrt{\left(\frac{2}{7} - 1\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{7}\right)^2} = \frac{2\sqrt{7}}{7} \dots \text{答} \\ PC = \sqrt{\left(\frac{2}{7}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{7} - 1\right)^2} = \frac{4\sqrt{7}}{7} \end{cases}$$

【総括】

本問の P は三角形 ABC のフェルマー点です。

余弦定理は目に付きやすいと思いますから、連立方程式の処理に帰着すると思います。

その際いかにスムーズに文字消去をするかが出来不出来に直結するでしょう。

試験場補正もわかりやすく、頭に血が昇った状態であった場合、一旦他の問題に避難するぐらいの冷静さは取り戻したいですね。